

プロジェクトで発生するリスクの MBTI を用いた事前予測

プロジェクトマネジメントコース 矢吹研究室 1442085 中村 真悟

1. 序論

MBTI(Myers-Briggs Type Indicator)という自己理解メソッドがある。主に相談場面や教育現場、企業の組織編制、人事政策などに利用されている [1]。

この MBTI を使い、プロジェクトの開始時点からメンバの性格を理解し、メンバの相互作用が原因となって起こる事象を予測できるのではないかと考える。したがって本研究では MBTI を用いて、グループワークでの事象とメンバの性格との相関関係について研究する。

2. 目的

本研究の目的は、グループメンバの MBTI の相互作用がプロジェクトにどのような影響を及ぼしているのかを調べ、MBTI のタイプからメンバ間で発生しやすいリスクを予測することである。

3. 手法

以下の手法で研究する。

1. グループワークで課題に取り組んでもらう
2. グループワーク後に、性格検査 [2] と失敗マングラ [3] に基づいた事象についてのアンケートを行う
3. メンバの性格とアンケートの結果から仮説を立てる
4. 被験者に MBTI の性格検査を行う
5. 仮説に基づき数人のグループを作り、グループワークを行ってもらう
6. 課題提出時にアンケートを行う
7. タイプと事象についての仮説を実証する

4. 結果

調和平均の計算結果は表 1 の通りである。

39 グループの性格検査とアンケートの結果をトレーニングデータ 30 件とテストデータ 9 件の 2 つに分けた。トレーニングデータをアソシエーション分析を行い、95 件のアソシエーションルールを

抽出した。

アソシエーションルールの正当性を実証するため、テストデータと比較し調和平均を求めた。アソシエーションルールは確信度 0.8 を越えると F 値が最も良くなった。

表 1 確信度 0.8 を越えたルールの調和平均

精度	0.25
再現率	0.863636364
調和平均	0.387755102

5. 考察

今回の結果から MBTI の相互作用がプロジェクトに規則性のあるリスクを及ぼしていると考えられる。

しかし、データが少なかつたため、有効性が実証されたルールも少ない。

データを取る対象を増やし、より多くのデータを集めれば結果が変わる可能性がある。

6. 結論

本研究では、グループワークからメンバの MBTI、発生した事象をアンケートを用いて集め、相関関係を調べた。その結果、MBTI のタイプと発生する事象に相互作用していることがわかった。

今後もデータを集めていけば、より多くのルールが見つかり、リスクが最も少ない組み合わせの提案につながる事が期待される。

参考文献

- [1] 中澤清, 田淵純一郎. 24 MBTI に関する研究 (1) : MBTI の概略について. 日本性格心理学大会発表論文集, No. 6, p. 52, Dec 1997.
- [2] Otto Kroeger and Janet M. Thuesen. 性格学入門 運命のカギをにぎる 16 のタイプ別性格判断. 飛鳥新社, Aug 1994.
- [3] 亀倉正彦. 失敗マングラを活用したアクティブラーニング授業の失敗事例分析とその知識化- 学生の「やる気」を引き出す観点から-. *NUCB journal of economics and information science*, Vol. 59, No. 2, pp. 123-143, Mar 2015.